

柏市の

慰霊碑調査奮闘記

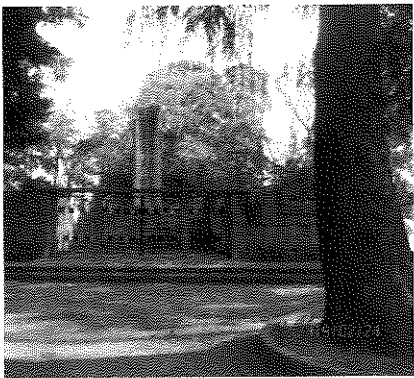
東葛借行会柏支部

鈴木 通彦 陸自69

●異様で近寄りがない「忠霊之碑」

昭和33年7月、市長が発起人になつた市民募金で手賀沼を見下ろす柏公園中央に実に立派な「忠霊之碑」が建設された。しかし60年過ぎた今、桜の名所であつたこの公園も杉や樫の巨木の森に変わり、説明版すらない鉄柵に囲まれたコンクリート造りの碑は、ホームレスが定住したこともあつて、市民にとり異様で近寄りがない存在になつている。

平成30年8月14日、東葛借行会は、隊友会とこの地で3度目の慰霊祭を共



催した。担がれて式辞を述べる立場になつたが、果たしてどの戦争の、どの、誰を祀っているか分からずに困つた。市の担当部局から十分な協力が得られないためか戦没者名簿がないのである。主役のはずの遺族会も、地区の慰霊碑建立で世話になつた住職による仏式慰霊祭が慣例だそうで、無宗教の慰霊祭を自由参加にしているといふ。いささか微妙な風向きだ。

「この戦争の」とは、その対象が、靖國神社同様に、戊辰戦争から大東亜戦争までか、それとも「先の大戦」すなわち大東亜戦争だけかである。「誰を」とは、戦死、戦病死、抑留死、戦没死、戦争被害者のいずれか、つまり、軍人・軍属か、義勇兵や徴用輸送船乗組員も含むのか、さらに療養後の戦病死者は……ということ。

「この」という柏市特有の問題もある。説明を要するが、柏市は、江戸時代「見るも哀れな寒村」でしかなかった。明治の開拓・入植、昭和の軍都を経て、交通立地の良さと空き地の多さで急速に発展したが、周辺にとり中核とは認め難い存在であつた。昭和29年に柏を核に4町村の合併で東葛市が生まれたものの反対が根強く、半年後に一部を隣の松戸と我孫子に分村合併することで柏市がやっと誕生した。その際、境界付近の戦没者がどう仕分けら

れたか分からない。その後の平成17年の沼南町合併経緯も気になる。

そこで慰霊碑調査を始めた。まず千葉県護国神社や地域の慰霊碑を調査し、これを詳細なデータに積み上げ、その後、市議会と行政へ働きかけることを目論みつつ……

●追悼式と慰霊祭という二つの流れ

今年も、8月15日に政府主催で全国戦没者追悼式が行われた。第2次世界大戦の軍人軍属の戦没者（英霊）230万と原爆や空襲で亡くなった戦争被害者80万人が対象の、憲法という信教の自由に基づく無宗教の、また1982年に8月15日が追悼と平和祈念の日と閣議決定されたことで、英霊の慰霊以上に戦争被害者の追悼と平和祈念が色濃いつ典である。今では県や市もこれに準じ追悼式を行っている。そして、この定型化は、それ以前の日清日露などの英霊に対する国や行政によって祀られる機会をなくした。

一方、靖國神社は戊辰戦争から大東亜戦争までの英霊246万柱を主祭神に春と秋に例大祭を行っている。8月15日は、自由参拝を歓迎するが必ずしも特別な日ではない。これが慰霊の流れであり、千葉県護国神社もその延長上にある。

二つの流れは、津地鎮祭訴訟（昭和

40(52年)、山口自衛官合祀事件(昭和43(63年)、箕面忠魂碑訴訟(昭和62(平5年)、愛媛玉串料訴訟(昭和56(平9年)など信教の自由に関する訴訟とA級戦犯合祀問題で定着した。そして一連の訴訟は、神社や寺院に対する行政の関与が社会通念の範囲なら合憲とされたにもかかわらず、行政を過度に慎重にさせた。

●千葉県護国神社の忠霊塔

昭和29年建立の護国神社忠霊塔に57248柱の軍人・軍属や従軍看護婦、更に千葉の空襲被害者が祀られている。それらが10cm×20cmのカードで階級、氏名、本籍、現住所、遺族名、死亡原因と時期・場所及び合祀された日などに記録されている。そして隊友会などの毎年の清掃協力もあり、それらが好意で提供された。それをもとに旧柏市と沼南町分1056柱を再分類すると、現柏市分は隣接市移行分が減り890柱になった。

芳名は、戊辰戦争こそないが、西南戦争から大東亜戦争、そしてシベリア等抑留にまで及ぶ。とはいえ、支那事変の196柱と大東亜戦争の562柱だけで758柱85%を占め、それが中心であるのは明白である。この詳細なデータを検索容易なようにエクセルで整理した。それを基準データとして活

用したが、手書きによる誤記や同姓同名の判読にはかなり難儀した。戦死地は、柏が佐倉の衛戍区にあり、第57聯隊と予備第157聯隊の戦歴に符合し上海周辺、比島、ニューギニアに多い。また、微用輸送船の撃沈による死亡者もかなり多い。

●柏の中核である忠霊之碑

忠霊之碑は柏の中核慰霊碑である。

建立に際し、碑の後ろに建てられた忠霊堂に出身地区、階級、芳名だけを刻んだ2m×1mの銅版8枚が設置された。当初803柱、さらに平成17年の沼南町合併時に沼南町分と旧柏市追刻分も加わり、今では銅版10枚に1023柱が刻まれている。死亡時期や場所を護国神社や地区慰霊碑と照合すると、日露戦争からシベリア等抑留死に至る軍人・軍属等の戦死、戦病死者を主に、微用輸送船の乗組員や満州での義勇兵も含まれている。しかし、日清戦争戦死者はいない。護国神社データからすると病死はいるので、名譽の戦死と病死を厳密に区別したらしい。一方、盗難を恐れ銅板が社会福祉事務所に管理され、年に一度の追悼式での展示にとどまっているのは残念だ。

沼南町は、昭和30年の風早村と手賀村の合併でできた沼南村、そして昭和39年の町への改称を経て、平成17年に

柏市と合併した。中核となる碑はないが、風早村の塚崎神明社に風早村と風早地区奉賛会の手による昭和27年建立の霊魂碑と昭和54年建立の散華招魂之碑があり、手賀中学校にも手賀村と沼南村郷友会の手による大正4年建立の忠魂碑と昭和32年建立の英霊碑がある。ゆえに、この二か所4基が沼南町を代表する柏の準中核碑だと言つてよさそうである。

●それぞれに思いのこもった地区慰霊碑

最後は、地区慰霊碑である。3か月かけ神社仏閣、学校、公園など150か所に足を運び、写真900枚におさめ、苔むした碑文を読み解いた。そして、市内の各地区に37の慰霊碑及び27の戦争関連碑があると知った。碑の内容は詳細なものもあるが、階級や功績の記述をあえて避けた碑もある。慰霊対象が地区の人々の目に見えるだけに、そこには地域ごとの配慮が感じられる。そのなかで満蒙開拓青少年義勇軍の鈴木正彰しげ夫妻がソ連軍の侵攻を受け生後間もない正美ちゃんとともに終戦後の8月27日に自決したと刻まれた碑文は、人々の強い哀惜の情を反映している。一方、碑の名称が「勅命や報効碑」から「忠」、そして「霊」を使う形に時代とともに変化している

のは興味深い。

戦争区分は微妙である。昭和16年12月10日に支那事変を大東亜戦争に含むと閣議決定されたが、碑は必ずしもその定義で建立されているわけではない。大東亜戦争に満洲事変やノモンハン事件、朝鮮鎮定作戦、シベリア等抑留が含まれたり、逆に支那事変と大東亜戦争が併記されたりとまちまちである。

ウクライナに抑留された川柳作家の木内信夫氏が柏でご活躍である。その抑留時代の辛い思いを描いた漫画40点が世界無形遺産に指定され、舞鶴抑留記念館に展示されている。講演会での「シベリアだけじゃない。ウクライナも蒙古もあつた。戦死だ！」が耳に残っている。確かに柏の抑留死者16柱にはモンゴル・中国・朝鮮の収容所名もみられる。

設置場所の問題もある。37の内訳は、神社16、寺院15、学校5、墓地1で、数の多い神社仏閣は丁重な扱いだが、学校はいまや慰霊碑に相応しい環境でなくなっている。

●柏で慰霊すべき戦没者は1284柱、そして今後どうする

慰霊碑は、地域に住む人々の心の歴史であり資産である。しかし、放置すれば忘れ去られる存在でもある。市民に碑が存在する事実とその意味を丁寧

に説明し、また丁寧に保存する努力が必要だろう。

慰霊碑の体系は、靖国神社、千葉県護国神社、柏忠霊之碑、そして地区慰霊碑の4層構造からなる。そのうち千葉県護国神社890柱、柏忠霊之碑1023柱及び地区慰霊碑528柱をまとめると、柏で慰霊すべき戦没者は、重複を考慮し1284柱になる。対象となる戦争も表のように明らかになった。松戸や我孫子との境界問題は、資料を総合し、足で確認しつつ丹念に仕分けた。結果、柏と我孫子に分断された根戸地区の北星神社24柱を例にとると、柏8柱、我孫子16柱のように

どの戦争が対象か

	対象となる戦争									
	西南戦争 1877/M 10	日清戦争 1894 95/M27-28	日露戦争 1904 05/M37-38	シベリア出兵 1918 -22/17-11	シベリア事件 1939 / 514	満州事変 1931 / 56	支那事変 1937 1945/512-20	大東亞戦争 1941-45/ 516-20	シベリア等留置 1945-56/ 520-31	国内で死亡及びその他(不含む)
護国神社	○ 2	○ 3	○ 8	○ 2	○ 4	○ 4	○ 196	○ 562	○ 16	○ 93
忠霊之碑			○ 18	○ 2	○ 3	○ 4	○ 165	○ 435	○ 12	○ 384
地区慰霊碑等	○ 1	○ 2	○ 22	○ 2	○ 4	○ 4	○ 95	○ 269	○ 6	○ 123

注:○は芳名のある戦争、数字は芳名数

提案書

- 現状認識と方向性
 - ・忠霊之碑を頂点に市内に37の地区慰霊碑及び27の戦争関連碑がある
 - ・護国神社、忠霊之碑及び地区慰霊碑から判断し柏に1284の慰霊対象がある
 - ・慰霊碑が遺族高齢化や戦後の時間経過とともに市民から縁遠くになってきた
 - ・この横性が平和で繁栄した日本の礎になった事実を市民に知らせる工夫が必要
- 提案
 - 柏忠霊之碑の整備
 - ・象徴的存在であるこの碑に戦没者が祀られている説明版を設置する
 - ・作成済の1023の芳名を記した銅板を忠霊堂に再設置する
 - ・碑が設置されている柏公園を駐車場も含め市民の近付きやすい形に整備する
 - ・遺族会、隊友会等でこれらの維持に協力する恩勢を整える
 - 各地区慰霊碑等の整備
 - ・手賀中学校の「忠魂碑」「英霊碑」、富勢小学校の「忠魂碑」及び柏第1小学校の「報効碑」「我忠碑」のより良い管理を検討する
 - 市民への周知
 - ・市の広報に碑の存在を話題として掲載する
 - ・柏市道徳庁において地区慰霊碑を映像で紹介する

せてくれる。

●柏市に提案、それが市長感謝状につながった

調査結果をもとに、隊友会柏支部長で自衛官OBでもある阿比留義顯市議に、議会での一般質問をお願いした。趣旨は、市民の浄財でできた忠霊之碑などの適切な管理である。これに併せ、柏市にもA4で120頁ほどの詳細なデータを提供し、実行がそれほど難しくなく公園整備に絡めた提案を行った。

ほぼ仕分けられた。今後の慰霊碑の管理を考えると、松戸相模台公園の忠魂碑は参考にしたい好例である。昭和31年に社会福祉協議会と建設特別委員会が建立、更に平成27年に社会福祉協議会、遺族会、東葛偕行会が市民に経緯を知らせる説明版を建てた。揮毫は吉田茂元首相で、ステータスを高める工夫がなされ手入れも良い。行政の関与しづらい問題も社会福祉協議会が上手く仲立ちしている。日清戦争から大東亜戦争の松戸の戦死者(戦没者)1220柱を祀り、それが転入者を含め1800柱に増えたとの説明書さも、状況をよく理解さ

市の対応は、立場が上にゆくほど前向きである。それは、副市長の「本来、市が実施すべきことをして頂き、感謝に堪えませぬ」に代表された。結果、平成31年度に幾つかが予算化されることになり、市長の感謝状授与にもつながった。このような形で感謝状を頂くのは異例だろう。市長は、「時間が経たなくてもすべて実行します」とコメントし、広報誌にも掲載された。隊友会が手賀沼トライアスロンを積極的に支援していることもあり、市長は隊友会の会合に必ず参加するようになった。国会で自衛官募集に対する市町村の協力が問題になっているが、「柏も開示してはいましたが名簿をお渡ししていなかったそうでは正します」とも、

柏市には陸海空の部隊が所在する一方市議会は保革同数で反自衛隊決議すら議決されかねない状況にある。そんな状況で自衛官OBの市会議員の存在は大きい。従来まかり通っていた誤認や誇張まがいの議論はなくなり、それを支える隊友会の活動も活発である。慰霊碑調査もその一環で議会や行政と距離を縮め、市民に近づくことに一役買った。同様に偕行会や水交会、そしてつばさ会が隊友会と力を合わせ、更に行政とのパイプ役がうまく機能すれば、地元目線の歴史の未来志向も必ずや前進するだろう。

